

研評 06-1

第1回HRC研究報告会外部評価シート

開催 場所	梅田サテライト	開催 日時	平成18年8月2日(水) 13:00-17:00
外部評価委員 所属・職・氏名	東京工業大学・電子物理工学専攻・ 教授・岩本光正		
総 評			
<p>研究という視点から見れば、4グループは、海外の動向を踏まえつつ、それぞれ独自の研究計画を明確にし、研究を進めている点で評価できる。しかし、産業大学としての目標との関連がわかりにくい。課題のテーマ全体をこの4グループでカバーすることはできないので、世界の研究の中で、産業大学としてどんな特徴を出すための目標設定が必要。そのコンセプトを、グループ間の共同研究を無理に迫及するよりも、広範な領域をカバーするグループなので、研究を通じてどのような人材育成が可能となるかという点に特徴をもたせ、討議、連携しながら進めることがHRCの特徴を出す鍵となるかもしれない。研究推進のため、発表論文に関してインパクトファクターに具体的数値を掲げることは、試みとしてはそれなりに研究者に刺激を与えるという点で意義がある。しかし、中間報告会を、研究報告や情報発信の機会とするだけでなく、どんな特徴のある教育が可能となるかを検討する機会と捉えてみるのもいかがか。</p>			
グループ1評価			
<p>高速動作可能な液晶デバイス技術を確立するため、弱アンカリングエネルギーに注目し新しい研究を進めようとしている点は注目される。教育という視点からグループ2,3,4と連携してどのような貢献ができるか明確にした方が良いと感じた。研究の視点からの連携は、グループ2,3がグループ4よりは近い位置にあると考えられるが、グループ2,3はそれぞれ異なった明確な目的があるので、これらグループの間でさえ、期間内に共同研究の種を発掘するにはかなりの努力が必要。</p>			
グループ2評価			
<p>テラヘルツの小型の自由電子レーザー光源を実現しようという目標のもと、研究を進めながら教育も実践しようとしている様子が伺えた。テーマ設定もよく、期間内での成果達成に期待したい。グループ間の共同研究や連携については、グループ1評価で記述した内容と同じ印象である。</p>			
グループ3評価			
<p>産業ベースで役立つ技術開発を念頭に着実に推進できるテーマを設定していると感じた。産業界との共同研究等により、目標は達成できるであろうと感じたが、その成果の到達点に期待したい。グループ間の共同研究や連携については、グループ1評価で記述した内容と同じ印象である。</p>			
グループ4評価			
<p>このグループは、若い研究者からなり、チャレンジ精神の感じられるテーマ設定であり、これからの成果に大いに期待したい。「古代からの知恵や伝統技術の中に学ぶ」というテーマ設定からスタートする方法論はあまり聞いたことが無かったが、どこまでオリジナルなものか、発表だけからは必ずしも分からなかった。当面は、グループ内での研究という形で進められると想像されるが、中間発表等を通じて、グループ1,2,3にも、意義とオリジナルな部分が明確になるような発表等の工夫が必要。</p>			